

医療的ケア支援委員会

部会長 小山勝章（森と木）

副部会長 小林紀子（にじいろキッズらいふ）

副部会長 小林祐子（稲荷山医療福祉センター）

副部会長 宮尾康代（はなみずき）

ケアマネ連絡会相談員 木下香織（歩楽里） 相談員 樺沢直子（ベターデイズ）

長野市障害福祉課担当者 古平係長 担当者 鎌田 CW

運営委員会 吉澤利政（長野市社会事業協会）

1、年間テーマ

医療的ケアを必要とする児（者）の受入施設の調査

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
6	10	にじいろキッズらいふ		今年度の活動について	ふくしネットの説明 医ケア委員会の事業計画の確認
9	30	にじいろキッズらいふ		アンケート調査のまとめ	医ケア児（者）の受入の課題整理 長野市の状況について意見交換会
12	9	にじいろキッズらいふ		調査結果の報告	調査結果の報告、課題の整理
2	10	にじいろキッズらいふ		次年度の委員会について	次年度執行部体制 活動内容の検討

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

○医療的ケア児（者）の受入等調査結果報告

4、課題について

（1）主な検討課題

○医療的ケア児（者）の受入施設の状況把握、課題の整理

(2) 検討の目的と結果（現状）

- 児童発達支援事業所では、受入できる施設について変化がない
- 放課後等デイサービス事業所では、1事業所（多機能型）増えた
- 医療型短期入所（日中型）では、1事業所増えた
- 生活介護事業所については、2事業所（多機能型）増えた
- 常勤看護師の配置のある施設ではすでに受入しており、配置看護師での対応は限界の事業所が多い
- 相談支援専門員の調査から、相談支援専門員とつながっていないケースもありそう

(3) 引き続き検討が必要とされる課題

- 障害福祉サービス事業所は微増だが増えている。実際の受入可能な人数が増えているのかを確認する必要があるため追加調査の実施
- 事業所で働く看護師の不安感の解消、医療的ケアを実施するにあたり必要な書類整備等ができていないことがあるため、状況確認およびマニュアル等の作成をする必要がある。また、施設で働く看護師に対する事例検討会、意見交換会も実施し、課題を整理する。
- 多職種（医療、保健、教育、福祉など）連携のための意見交換会の実施
- 退院時フローチャートの修正

(4) 部会の運営体制について

- 執行部体制を見直し、新規事業所等が参画することで、新たな課題に取り組む体制づくりが必要である。

5、総括（1年間を振り返って）

国の調査、昨年度の実数調査では医療的ケアを必要とする児童は増加傾向にあるとされているが、今年度の事業所調査結果から、市内事業所での受入については微増な状況であることがわかった。委員会に参加する事業所はすでに医療的ケアを必要とする児（者）の受入をしている事業所であり、今後も多くの利用者を受け入れることは困難であることがわかった。

また、現在、長野市内の事業所を地図上への落とし込みを進めており、地域ごとに実数調査で把握している医ケア当事者の人数を落とし込んだものを作成中である。それらのデータをもとに専門部会において医療的ケアを必要とする児（者）の課題について検討してもらい、必要なデータがあれば委員会で調査するなど、委員会の在り方、役割を検討する必要があると思われる。